

連載コラム



みずき野と  
その周辺の  
植物と昆虫

第 65 回

特集:いろいろな生物との出会い



もとよし ふさお  
本吉 総男

2022 年 2 月

今回は「みずき野とその周辺の植物と昆虫」というコラムのタイトルにこだわらず、散策の折に目についたキノコや動物についても述べてみます。特にキノコはたくさんの写真を撮りましたが、これまで掲載する機会がありませんでした。良い機会なので、今回、特に特徴あるキノコの写真を載せています。動物については、みずき野周辺にもこんな動物がいたのかと、私自身驚いています。ちなみに、私はみずき野に1987年(昭和58年)に越してきましたが、その頃は道を横切るイタチをよく見ました。守谷城址公園の近くではノウサギの姿が見られました。また、産卵のため、多数のガマガエルが田に向かって車道を横断していました。今はイタチにもノウサギにもガマガエルにも出会うことがなくなりました。守谷は住み良い町としてランキングの上位にあるようですが、動物にとっては棲みやすくなってしまったようです。

## 1 被子植物

植物の中で、最も進化した植物は種子を作る植物(種子植物)で、裸子植物(針葉樹、イチョウ、ソテツ)と被子植物(サクラ、キク、イネなど)に分けられます。被子植物は種子が子房の中で成熟する植物で、子房をもたない裸子植物より、さらに進化の進んだ植物の一群です。

みずき野やその周辺には、めったに見られない植物や、生育する地域が限られた植物があります。それらのうち4種を選んでここに載せておきます。これら以外にも、クマツヅラ、クマヤナギ、センブリ、キンランなどもそのような植物に入るかと思いますが、これらについては別の機会に述べたいと思います。

**ギンリョウソウ**はツツジ科シャクジョウソウ亜科の植物で、みずき野文化財公園で見つけました。通常は茎が長く伸びるのですが、この個体は生長の様子が異常で、ほとんど伸びていません。本来は真っ白な美しい植物なのですが、少し枯れかかって汚れていました。葉緑素を持たないので、落ち葉の腐食から栄養を得て育ちます。このギンリョウソウは2014年に見たものです



ギンリョウソウ 5月下旬 みずき野文化財公園

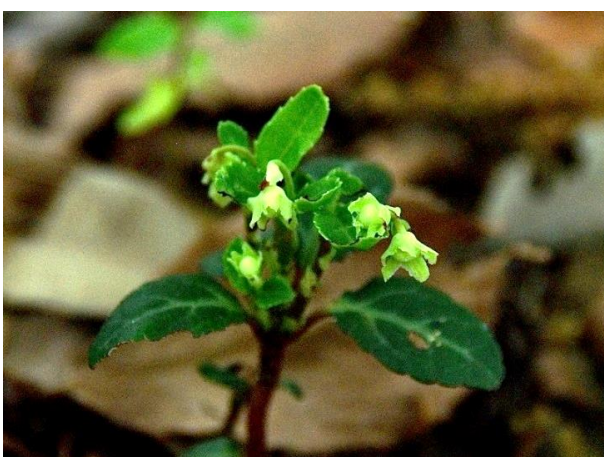
が、それ以降は現地で見つけることができませんでした。いつかまた出会えることを期待しています。

**フデリンドウ**はリンドウ科の植物で、秋に咲くリンドウと異なり、春に咲く空色の美しい小さな植物です。越年草なので、種子によって繁殖します。したがって、花の咲いている時期に掘り取られると、絶えてしまう危険性があります。



フデリンドウ 4月中旬 (撮影地は省略)

**ウメガサソウ**はツツジ科イチヤクソウ亜科のごく小さな植物です。小さいので草のような名がついていますが、よく見ると木もくほん (木本)です。地味な植物ですが、可憐な花をつけます。この植物の根は菌根菌きんこんきんとよぶ菌類と共生し、菌根菌きんこんきんがブナ科植物の根から栄養分を吸収し、その養分をウメガサソウが利用して生長します。したがって掘り取って庭などに植えても育てることはできません。



ウメガサソウ 5月上旬 (撮影地は省略)

フデリンドウとウメガサソウは絶滅が心配なので、撮影地を省きます。

すでに守谷から絶えてしまったと思われる植物をひとつ載せておきます。**チョウジソウ**です。以前は小貝川から流れる水路にまたがる金ヶ崎橋(本町地区)付近に生育していたと噂に聞いていますが、現在はまったくありません。その後守谷城址公園の中にボランティアによ



チョウジソウ 5月中旬 守谷市城址公園

て管理された場所に育てられていましたが、これらも現在は絶えてしまっているようです。写真は以前、守谷城址公園で撮った写真です。なお、私が初めてチョウジソウに出会ったのは、サクラソウの自生地として有名な埼玉県田島ヶ原でした。

チョウジソウはキョウチクトウ科の多年草で、やや湿った場所に生息します。初夏に茎の

先端近くに薄紫の美しい花を咲かせます。チョウジソウは全国的に数が少なく、環境省によって絶滅危惧 II 類に指定されています。

## 2 ゼニゴケ

**ゼニゴケ**は、庭や道ばたなどによく見かける平たいコケで、地面に張り付いて増殖します。地面を覆い、湿ったぬめぬめした姿やぶつぶつした不気味な小斑点から、一般には不快な雑草と感じる人が多く、庭に生えるのを嫌います。駆除するために、ゼニゴケ専用の除草剤も販売されているほどです。でも見方を変えて増殖の仕組みを知ると(次ページの解説を参照)、意外に魅力的な植物であることに気づきます。

下に農道のへりで見つけた雌雄のゼニゴケの写真を載せます。雌株と雄株の群落はそれぞれたくさんの雌器托しきたくおよび雄器托ゆうきたくを作っています。雌株の雌器托しきたくは、緑と褐色に変色した雌器托しきたくがモザイクのように組み合わせられて、自然が作り出した近代的な造形美を感じました。



ゼニゴケ雌株の群れ  
10月下旬 取手市貝塚地区



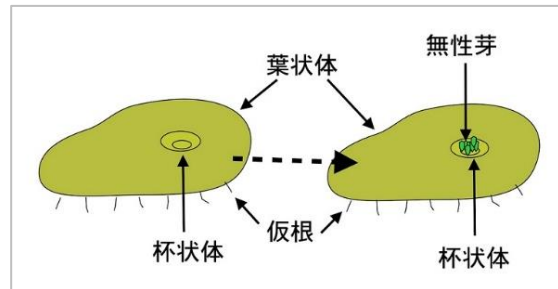
ゼニゴケ雄株の群れ  
5月下旬 取手市貝塚地区

なお、写真に載せた雌株の群れは10月に、雄株の群れは5月に撮ったもので、季節が異なりますが、受精は春と秋にみられるそうです。これについては、畦浩二&前川太祐著「[ゼニゴケの繁殖季節と教材化](#)」という論文の抄録を載せたサイトがあります。

## 解説:ゼニゴケの 2 通りの増殖

ゼニゴケの地面に接する平たい部分は葉状体ようじょうたいといい、仮根かこんによって地面に張りついています。ゼニゴケの増殖は無性生殖(受精によらない繁殖)と有性生殖(受精による生殖)の 2 通りあります。

無性生殖は、葉状体の表面の凹みの中につくられた杯状体はいじょうたいの中で起こります。その名のとおり、杯さかずきのような形をしています。上からは円形に見えます。杯状体の底には多数の無性芽むせい芽がつくられる組織があります。無性芽は地面に落ちて、葉状体に生長します。ゼニゴケは雌雄異株(雌株と雄株に分かれている)の植物ですが、葉状体そのものや杯状体をつくっている葉状体は雌雄の区別はつきません。

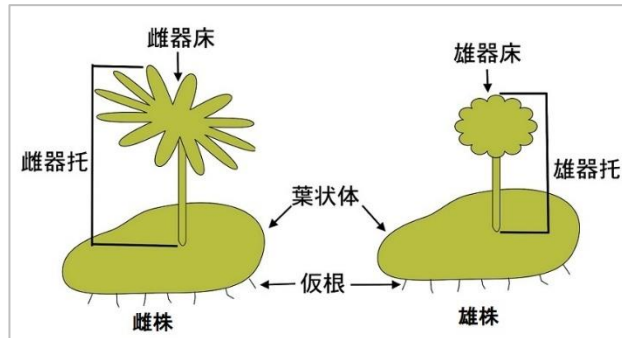


ゼニゴケの無性生殖

残念ながら杯状体の写真は撮っていませんが、「奥行き1mの果樹園」というサイトに、よく撮れた杯状体と無性芽の写真が載っているので参照してください。

### [奥行き1mの果樹園「ゼニゴケ科～ゼニゴケ\(銭苔\)」](#)

次に有性生殖について述べます。葉状体はしばしば長い柄を生じ、先端に雌器床しきしょうまたは雄器床ゆうきしょうをつけます。雌器床と柄を合わせて雌器托しきたく、同様に雄器床と柄を合わせて雄器托ゆうきたくと呼びます。この状態で初めて葉状体の雌雄が判別できます。いうまでもなく雌器托をもつ株が雌株、雄器托をもつ株が雄株です。



ゼニゴケの有性生殖

雌器床は破れ傘のような形で、裏側に多数の造卵器ぞうらんきをもち、それぞれの中に卵をつくります。雄器床は内部に多数の造精子ぞうせいきをもち、それぞれの中に精子を多数作ります。雄器床が雨で濡れると、おびただしい数の精子が撒き散らかされ、雨水の中を泳いで、運よく雌株の造卵器の中の卵に到達すると合体(すなわち受精)します。受精した卵は分裂して多数の胞子を作り、地面に落ちた胞子は発芽して葉状体になります。

ゼニゴケの受精については、簡潔でわかりやすい動画が、NHKのホームページにありますので、是非参照してください。

### [NHK for School「コケ植物はどうふえる？」](#)

### 3 キノコ

夏から秋の散策ではよくキノコに出会います。特に守谷野鳥の森散策路には多数のキノコが見られます。その他の地域でも湿り気のある林の中にはいろいろなキノコを見つけることができます。どれも個性があり、それぞれに魅力的です。今まであまりキノコには触れていないので、この機会に目立つ特徴をもつキノコについて、なるべく多くの写真を簡単な説明と共に載せておきます。

キノコとは、特定の菌類がつくる生殖のための器官で、菌糸きんしの一部が密に集合してつくられます。キノコという名は俗称で、科学的には子実体しじったいといいます。正確に言えば、子実体しじったいの大きなものをキノコと呼んでいます。胞子はキノコの裏面で作られます。

**テングタケ**はテングタケ科の代表種で、最も普通に見られるキノコですが、いかにもキノコらしい風貌が好きです。ただし有毒で、食べると腹痛、めまい、呼吸困難などの症状を引き起こしますので、注意してください。

テングタケ科にもこんな右の写真のようなキノコがあります。**シロオニタケ**です。初めて見たとき、抽象的な彫刻のように思いました。自然は優れた彫刻家です。



テングタケ

11月上旬 みずき野さくらの杜公園



シロオニタケ

10月中旬 守谷野鳥の森散策路

守谷市松前台の大山公園には広くない一区画ですが、大きな樹木が育って林をつくっています。その中に巨大キノコがありました。大きさを調べるため、手持ちの文庫本を置いて径を測ってみると、文庫本の倍ほどあり、30センチ内外、驚くべき大きさでした。残念ながら古くなったキノコだったので、種の判別はできませんでしたが、傘の裏にはひだはなく、管孔かんこう（小さな管で胞子を作る器官）が密集しているので、イグチ科の一種と分かりました。**イグチ**の仲間



巨大なイグチ(ヤマドリタケモドキ)  
8月上旬 守谷市大山公園

で大きな傘を作るものは、ヤマドリタケ、ヤマドリタケモドキ、およびドクヤマドリです。図鑑などにはこれらのキノコの傘の径は大きくて20センチ位とありますので、これは特大級に思えます。

ヤマドリタケとヤマドリタケモドキは区別がつかないほどよく似ているようです。最近、日本で従来ヤマドリタケと思われていたものはヤマドリタケモドキといわれています。

ヤマドリタケそのものは日本にはないのかもしれない

もしれません。ヤマドリタケモドキもヤマドリタケと同様、美味しいキノコだそうです。

ヤマドリタケの若いものは欧米で珍重されているキノコです。いろいろな呼び名があるようですが、イタリア語のポルチーニという名をよく聞きます。ドクヤマドリは有毒ですが、亜高山帯の針葉樹林に発生するそうなので、茨城県南では見られないと思います。

みずき野さくらの杜公園で、緑色の傘を持つキノコを見つけました。イグチ科の**ミドリニガイグチ**です。無毒なので食べても大丈夫のようです。



ミドリニガイグチ (左:表面、右:裏面) 9月下旬 みずき野さくらの杜公園

**ドクベニタケ**はベニタケ科のキノコで傘の表が紅色、裏と柄が純白の美しいキノコです。その名のとおり毒キノコですが、間違っって口に入れると、すごく苦く、刺激的で、食べるどころではないそうです。



ドクベニタケ (左:表面、右:裏面) 10月中旬 守谷野鳥の森散策路

**ニオイコベニタケ**はドクベニタケと同じくベニタケ科のキノコですが無毒です。カブトムシのような匂いがすると図鑑などに書かれています。確かに匂いますが、カブトムシがどんな匂いがするかは知らないのです、その点はなんともいえません。



ニオイコベニタケ

7月上旬 山富園北斜面(みずき野)

守谷市松前台のやまばと公園でヒドナンギウム科の**カレバキツネタケ**を見つけました。色は地味ですがふっくらとした傘と傘の中心から緩やかな曲線を描くひだはユーモラスな感じがあります。恋人どうしのように 2 つのキノコが寄り添っているところもおもしろく、写真に撮りました。



カレバキツネタケ (左:表面、右:裏面) 7月上旬 守谷市やまばと公園



**ササクレヒトヨタケ**はハラタケ科のキノコです。同じくハラタケ科のヒトヨタケは有毒ですが、ササクレヒトヨタケは食べられるそうです。どちらも傘の周辺から黒化し、自己消化によって溶けて黒い液体になってしまいます。不思議な現象です。



ササクレヒトヨタケ（左:まだ若い、右:成熟後） 11月中旬 守谷野鳥の森散策路

小さいキノコも魅力があります。それらのひとつ、**ハナオチバタケ**の写真を載せておきます。ホウライタケ科のキノコで、傘の直径は1~1.5センチ程度の繊細なキノコです。傘の色は黄色、赤、紫など変異に富んでいます。



ハナオチバタケ（左:表面、右:裏面） 10月上旬 守谷野鳥の森散策路

**オオホウライタケ**はハナオチバタケと同じく、ホウライタケ科のキノコですが、それらの仲間の中ではかなり大きく、傘の直径は3~10センチほどです。



オオホウライタケ 10月上旬 守谷野鳥の森散策路

**ハチノスタケ**はサルノコシカケ科のキノコで、傘の表は平凡ですが、裏側は粗い管孔<sup>かんこう</sup>が集合しており、蜂の巣のように見えるのでその名がつけました。あまり目立たないキノコにもそれぞれ特徴があるものです。



ハチノスタケ（左：表面、右：裏面） 11月中旬 守谷野鳥の森散策路

ここからは変わった形のキノコの写真を載せてみましょう。**ノウタケ**はホコリタケ科の大型のキノコで上部の径は10センチほど。多くのものは焦茶色ですが、色の薄いものもあります。色の薄い方のノウタケ、何かに似ていませんか。なお、若いノウタケは食べられるそうです。



ノウタケ（左：色の濃いもの、右：色の薄いもの） 10月上旬 守谷野鳥の森散策路

**タヌキノチャブクロ**もホコリタケ科のキノコです。比較的小さなキノコで上部の径は2～3センチ。ユーモラスな名ですが、なぜタヌキなのか、茶袋とはどんなものか、よく分かりません。



タヌキノチャブクロ 10月中旬 取手市貝塚地区



ツチグリ 11月中旬 山富園北斜面(みずき野)

**ツチグリ**もホコリタケ科のキノコです。クリに似たキノコの本体の周りの縞模様の膜状のものは、本体を包んでいた外皮が開いたものです。本体の径は2センチ程度です。もう少し早く気がつけば、外皮を被ったツチグリが見られたはずで残念です。

**ヒメカタショウロ**はニセショウロ科のキノコです。海岸の松林の砂の中に生えるショウロはショウロ科のキノコで、珍重される食用キノコですが、ニセショウロやヒメカタショウロは有毒です。



ヒメカタショウロ 9月下旬 守谷野鳥の森散策路

**シロソウメンタケ**はシロソウメンタケ科のキノコで、傘も柄もない不思議なキノコです。私の写真では1本ないし2~3本が独立して生えていますが、多くの場合、多数が束になって生えているようです。でも分歧しているわけではなく、1本1本がまとまって生えているのだそうです。食べられますが無味無臭だそうです。



シロソウメンタケ 8月中旬 守谷市大山公園

**ツマミタケ**はツマミタケ科のキノコで、悪臭を放ち、先端近くにハエを呼び寄せます。右の写真でもキンバエとニクバエが1匹ずつとまっています。ハエを呼び寄せるのは孢子を運ばせるためでしょうか。柄にはダンゴムシが2匹とまっています、茎を食べているように見えます。あまり気持ちのいいキノコではありません。



ツマミタケ 7月下旬 みずき野6丁目

## 4 昆虫

**オニクワガタ**の雄が中央公園北口付近に地面に落ちていました。体長2センチ2ミリほどのクワガタムシです。子供たちが大好きなノコギリクワガタ、ヒラタクワガタなど大型のクワガタムシほど人気はないかもしれませんが、バランスのとれた格好よいクワガタムシです。



オニクワガタ 9月下旬 みずき野中央公園北入口

**カマキリ**の仲間にはカマキリ、オオカマキリ、ハラビロカマキリなど、普通に見られるものが数種ありますが、写真のカマキリの種の判別はできません。上半身がにゅっと現れたので思わず



カマキリ 10月下旬 みずき野第2調整池付近

写真を撮りましたが、カマキリはなかなか味のある顔です。カマキリは昆虫の中ではなんとなく人間に似た行動をします。ちょっとかまうと威嚇してきたり、とても敵わないことがわかるとこそこそ逃げ出したり、感情がなんとなくわかる。そんなところが好きです。



コカマキリ 腕に自慢の模様  
9月下旬 守谷市本町地区

**コカマキリ**は、褐色の小型の地味なカマキリです。しかしよく見ると、腕に不思議な模様があります。体長 5~6 センチほどの小さなカマキリですが、腕の模様を示すため、写真を拡大しました。

玄関先をアリとしは大きなアリが這<sup>は</sup>っていました。おそらく**クロオオアリ**の女王アリと思われます。クロオオアリは日本では大きいアリですが、働きアリは大きくても、体長 1 センチほどです。女王アリと思われるこのアリは約 1 センチ 8 ミリありました。これから巣をつくってたくさんの卵を産み、働きアリを育てるのでしょう。



クロオオアリ 多分、女王アリ  
5月上旬 わが家の玄関先

## 5 カエル

**アマガエル**は通常緑色ですので、アオガエル(モリアオガエル、シュレーゲルアオガエルなど)に近縁と思われがちですが、アオガエルとは縁遠く、むしろガマガエルに近いとされています。アマガエルはごく普通に見られるカエルですが、周囲の色に合わせて、体色を変えることができ、次ページの写真はどれもアマガエルです。白黒まだらのアマガエルさん、うちの庭はそんな感じなの？



アマガエル 緑色 5月中旬 取手市市之代地区



アマガエル 淡緑色 4月中旬 守谷市高野地区



アマガエル 白色  
9月下旬 守谷市四季の里公園



アマガエル 白黒まだら 9月下旬 わが家の庭

**トウキョウダルマガエル**は以前トノサマガエルとされていました。現在はトノサマガエルとは別種であることがわかっています。関東には、神奈川県を除いて、トノサマガエルはおらず、



トウキョウダルマガエル  
5月下旬 みずき野3丁目東斜面下の側溝

トウキョウダルマガエルが棲みついているとのことです。トノサマガエルは北海道、本州、四国、九州の各地に分布していますが、ほとんどの地区で絶滅危惧種に指定されています。トウキョウダルマガエルはトノサマガエルより後脚が明らかに短いので識別は容易です。幅跳びをすればトノサマガエルに軍配が上がるでしょう。

**アカガエル**には4種の近縁種がいます。普通に見られるニホンアカガエル、ヤマアカガエル、茨城県では準絶滅危惧種のタゴガエル、溪流に棲むナガレタゴガエルです。写真のアカガエルは撮影のアングルがわるくて、種の判定が難しいのですが、ニホンアカガエルのように見えます。もう少し横から撮ろうとカメラを動かしたら、素早く逃げてしまいました。



ニホンアカガエルと思われる  
5月下旬 守谷市やまばと公園

みずき野のさくらの杜公園のハス池に向かっ

て鎮座しているのは紛れもなく**ウシガエル**です。堂々としていますが、祖先は大正年間に食



ウシガエル 5月上旬 みずき野さくらの杜公園

用として北米から輸入されたものです。今では日本各地に野生して大きな声をあげています。別名を食用ガエルといいますが、日本では食用としてはあまり普及しなかったようで、食べたことのある人はあまりいないのではないかと思います。もも肉を食べるのですが、私はオランダで食べたことがあります。鶏肉に似ていますが、もっとあっさりした味だったと記憶しています。

## 6 その他の生物

小さな貝の群れをみずき野3丁目東隣接地（取手市上高井地区）の水田近くの湿地に見つけました。湿地に足を踏み入れないと接写ができないので、無理せず離れた場所から写しました。種の正確な判定は無理ですが、細長い巻き貝であることから、**カワニナ**のように見えます。でもカワニナはきれいな流れを好むので、これがカワニナとは決



小さな貝 形はカワニナに似る  
みずき野3丁目東隣接地

められません。カワニナはホタルの餌として最適だそうです。



メダカ 4月上旬 守谷野鳥の森散策路

**メダカ**は環境省により絶滅危惧 II 類に指定されており、全国では希少な魚ですが、守谷の本町地区の水溜りなどでは春によく見られます。この写真は守谷野鳥の森散策路内の湿地で撮ったものです。これらは販売されている弱々しく色彩の多様なメダカと異なり、たくましい野生の姿です。頭部から背の中心を走るはっきりした黒い帯とその両脇の白くて細い線は野生のメダカの特徴です。

メダカによく似たカダヤシという魚が東関東以西に広がって繁殖しています。カダヤシの名はカの幼虫ボウフラを食って蚊を絶やすという意味でつけられた名ですが、雑食性で魚の卵や幼魚をも食べてしまいます。北米原産ですが、日本には1916年に台湾から輸入され、蚊を退治するために放流され、各地に広まったようです。メダカが棲む場所にも棲みつくので、カダヤシの繁殖はメダカが少なくなった原因のひとつかもしれません。カダヤシはメダカによく似ていますが、背の中心の黒い帯がないことや、尾緒が丸いことおびれからメダカとの違いがわかります。私がつくばの研究所に勤務していた頃、研究所のすぐ近くに池があり、カダヤシがたくさんいたので、なじみの魚でした。みずき野周辺では見たことがありません。

2014年の初夏に、**ニゴイ**がさくらの杜公園の東側に隣接する用水まで遡上してきました。ニゴイがこんなところまで来たのは驚きでしたが、その後は1度も見ていません。ニゴイはコイ科ですがカマツカ亜科に属し、コイ科コイ亜科のコイとは分類上異なります。なお、ニゴイは日本固有種だそうです。



ニゴイ 5月上旬 さくらの杜公園東隣接水路

みずき野1丁目の消防署前のメイン道路を少し南に行くと、西側に、本町に抜ける路があり、右側は石垣のように見えるコンクリートの壁があります。この壁の下に赤みがかった色のヘビ



はが這っていました。接近したら、壁と道路の境目に穴があり、その中にするする逃げ込んでしまいました。2011年11月上旬のことです。こんな色のヘビをそれまで見たことがなく、正確な判別はできませんでしたが、若年のアオダイショウには赤みがかかった個体があるそうなので、**アオダイショウ**だったかもしれません(アカダイショウと呼びたいところですが)。話によると、若年のマムシにも赤みがかかった個体があり、若年のアオダイショウによく似ているそうなので、こんな感じのヘビを草原や川辺などで見たら気をつけてください。ところで、こんな住宅地に近い場所で一体何を食べているのでしょうか。

ヘビの写真は見たくない方がおいでになるかと思しますので、ここには掲載せず、インターネット上に写真を入れておきましたので、興味のある方は見てください。

### 近隣で見かけたアオダイショウかと思われるヘビ

もうずいぶん以前のことですが、2009年にみずき野近くで**ハクビシン**を見たことがあります。ハクビシンはジャコウネコ科の哺乳動物で、ヒマラヤから東アジアの温帯まで広く分布しています。国内では北海道から沖縄まで広く分布しています。日本本土には江戸時代に持ち込まれた形跡があり、さらに戦時中に毛皮用に持ち込まれた記録があるようです。雑食性で果実や残飯などを食べ、家屋の屋根裏に棲みつくこともあります。それ以後、ハクビシンを見たことがありません。



ハクビシン5月中旬  
みずき野5丁目山富園西駐車場付近

## 追記

コラムのメイン・タイトルは「みずき野とその周辺の植物と昆虫」ですが、今回は植物と昆虫のほかに、興味深いキノコや動物についても述べてみました。キノコは長い間、植物の仲間とみなされてきましたが、DNA の解析により植物より動物に近いことが明らかになりました。簡単な説明(英文)がアメリカ微生物学会のホームページの中にありますので興味ある方は参照してください。

[American Society for Microbiology: "Three Reasons Fungi Are Not Plants"](http://www.ascmicrobiology.org/Three-Reasons-Fungi-Are-Not-Plants)